

# 肺癌の検査

## について

日本臨床検査専門医会  
諏訪部 章



### ■ 肺癌ではどのような症状が出ますか？

肺癌の症状は、癌の種類、できる場所、進行具合によってさまざまです。肺癌の初期には無症状ですが、気管支に肺癌（主に扁平上皮癌という種類）ができて咳や痰（時に血痰）が出現し、肺にできた肺癌（主に腺癌という種類）が大きくなって胸壁に達すると胸痛が現れます。進行し全身に肺癌が転移すると、食欲がなくなり体重が減少し、骨の痛み（骨転移）や頭痛・痙攣（脳転移）が見られます。肺内のリンパ節が大きくなると反回神経を圧迫し声がれが出現することもあります。

### ■ 肺癌ではどのような検査を受けますか？

まず年1回の検診は必ず受けて胸のレントゲン写真を撮りましょう。肺にできる腺癌という種類は、初期には無症状ですが、レントゲン写真によって見つけることができます。

また、タバコを長期にわたりたくさん吸っている方は、ぜひ「痰の検査」を受けて下さい。タバコを吸う人に多い扁平上皮癌という種類の肺癌はレントゲン写真では写

りにくいのですが、逆に痰の中に癌細胞が現れやすいので、痰の中に癌細胞がないか顕微鏡で観察することで早期発見が可能です。

### ■ 肺癌と診断されたらどのような検査を受けますか？

肺癌の進み具合や治療方針を立てるための検査を行います。検診で肺癌が疑われた場合、気管支鏡の検査、胸部・腹部・脳などのCT検査、骨の検査などを受けます。気管支鏡の検査は、内視鏡で直接気管支の内部を観察し、肺癌の組織を採取して、最終的な確定診断を行います。その他は、リンパ節や他臓器への転移がないかを判定します。他臓器への転移がなければ手術が可能になりますが、不幸にも転移が見つかった場合は抗癌剤や放射線による治療が中心になります。

肺癌ではさまざまな腫瘍マーカー（CEAやSCCなど）が血液中に増加しますが、それだけで診断をつけることはなく、多くは治療効果や再発の判定に利用します。

最近では、イレッサという薬剤が末期で手の施しようのない肺癌にもある程度の治療効果を示すことが明らかになっています。しかし、この薬は、非常に効く人と重い副作用で命を落としてしまう人とがいるために、最近では遺伝子検査によってその効果を事前に予測できるようになっています。

